

ドイツボルドーA

■種類名：銅水和剤
 ■有効成分：塩基性塩化銅-----84.1%
 [銅として-----50.0%

■登録番号：第7381号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1966.03.08
 ■性状：青色水和性粉末 45μm以下
 ■有効年限：5年
 ■包装：500g×20袋、1kg×20袋

【特長】

- 広範囲の病害に有効な、銅を有効成分とする汎用性殺菌剤。特に細菌性病害防除剤として定評がある。
- ばれいしょ、てんさい、かんきつ、茶、果菜類など適用作物が広い。
- JAS法の有機農産物生産に使用可能。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数
稲	墨黒穂病、稲こうじ病	2000	60~150	出穂10日前まで	-	散布	-
かんきつ	そうか病、黒点病	400~800	200~700	-			
	キウイフルーツ	かいよう病		1000~2000			
花腐細菌病		500		果実肥大期			
くり	実炭疽病	1000		-			
野菜類	軟腐病、べと病	500~1000	100~300	-			
トマト ミニトマト	疫病、斑点病、葉かび病	500		-			
きゅうり	斑点細菌病	500~1000		-			
レタス 非結球レタス	斑点細菌病、腐敗病			-			
メロン	斑点細菌病	500		根株養成期			
たまねぎ	白色疫病			収穫後			
うど	黒斑病			100~500			
アスパラガス	茎枯病	100~300		-			
キャベツ	黒腐病、黒斑細菌病			-			
ばれいしょ	疫病			400~800			
かんしょ	斑点病		500	-			
いんげんまめ	かさ枯病		500~600	-			
はっか	さび病		500	-			
とうがん	果実汚斑細菌病		800	-			
てんさい	褐斑病		400~800	-			
ホップ	べと病	1000	100~700	-			
茶	炭疽病、もち病 網もち病	500	200~400	摘採14日前まで			
	赤焼病	500~1000	-	-			
ひまわり(種子)	空洞病	500	100~300	収穫14日前まで			
ひまわり			-	-			
樹木類	斑点症(シュート「サー」コガウ菌)	800	200~700	発病初期			

【効果・薬害等の注意】

- 核果類には薬害を生じるおそれがあるので付近にある場合にはかかからないように注意して散布すること。
- かんきつに散布する場合は、薬害(スターメラノーズ)の発生を防止するために炭酸カルシウム水和剤(クレフノンなど)を加用(200倍)すること。特に果実の着生時期の散布では厳守すること。
- くりに散布する場合には、薬害の発生を防止するために炭酸カルシウム剤(クレフノンなど)を加用(100倍)すること。
- 雑柑類、特にワシントンネーブルなどに対しては薬害を生じるおそれがあるので、高濃度(1000倍)液の散布はさけること。

- 本剤は無機の銅剤であるため、きゅうり、メロン、キャベツ、はくさいに対して薬害を生じるおそれがあるので、下記の事項に十分注意すること。
 - ◆ 幼苗期は特に発生しやすいので、中期以降の散布にすること。
 - ◆ 高温時の散布は症状が激しくなることがあるのでさけること。
 - ◆ 連続散布すると葉の周辺が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用をさけること。
 - ◆ 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は、薬害軽減に有効であるが、収穫間際には収穫物に汚れを生じるので留意すること。
- レタス、非結球レタスに使用する場合は薬害を生じることがあるので炭酸カルシウム剤を加用すること。特に幼苗期や高温散布は薬害を生じやすいのでさけること。なお、収穫間際の散布では収穫物に汚れを生じる場合があるので留意すること。
- ほうれんそうに使用する場合、収穫間際の散布は収穫物に汚れを生じるおそれがあるので留意すること。
- 本剤をキウイフルーツに使用する場合、新梢が10cm以上に伸長したのちの散布は薬害を生じるので、使用時期を厳守すること。
- キャベツに使用する場合は結球開始期以降の散布をさけること。
- アブラナ科葉菜類(キャベツを除く)に対しては薬害を生じるおそれがあるので、高濃度(500倍)液の散布はさけること。
- アスパラガスに使用する場合は、植物体が軟弱な時は炭酸カルシウム剤を加用すること。
- 稲に使用する場合は薬害を生じやすく、特に出穂期以降は生じやすいので、出穂10日前以降の使用はさけること。なお、散布後少なくとも7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 通常の使用方法では毒性は低いが、誤飲誤食などのないように注意すること。
- ❖ 万一中毒を感じた場合、あるいは誤って飲み込んだ場合には多量の水を飲ませるなどして胃の中のを吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 散布の際はマスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田で使用しないこと。
 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
 散布後は水管理に注意すること。
 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。